令和４年度芙蓉保育園自己評価

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。
このことを踏まえ、芙蓉保育園は保育の質の向上を図る為に、保育士の自己評価を年度末に年一回行っています。この結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるように努力していきます。

◎　教育及び保育の配慮

・子どもの気持ちに寄り添うことを意識して保育してきたが、トラブルになりそうなときは大きな声を出したり、「だめ」という言葉で対応してしまうこともあった。
　友達との関わりで起きるトラブルも経験の一つとして大切ではあるが、トラブルが起きる原因を見直すことも大事だと感じた。
・「自分でやってみたい」「やってみよう」という思いを大切に接してきた。「できた」ことも大切だが「できない」「やって」という思いを保育士に伝えることも大事で、その思いに寄り添うこと、次に繋げられるような関わりを意識した。
・一人ひとりの対応については、職員間で話し合い、気持ちに寄り添った関わりを意識した。

◎　環境を通して行う保育

・危険を避けながらも、子どもが興味を示したものや行動を認めていくことが難しいと感じた。一方的に制止しがちだったが、一緒に見たり行動をしながら危険な理由も一緒に確認できるよう関わっていきたい。
・戸外活動は散歩の機会が少なかったが、身体を動かすこと、季節を感じること、感性を育てることについては、ねらいに沿って活動ができた。
・子どもが遊びに集中している時や、何かをしようとしている時は、言葉のかけ方に配慮し近くで見守るようにした。子どもなりの遊び方を尊重することで、遊びが豊かになった。
・野菜の栽培を通して、苦手な野菜に興味を持つようになって良かった。
・保育室の環境は、子どもの遊んでいる様子や発達段階に合わせて、保育士間で話し合いながら変更したり、新たに玩具を設置するなど工夫した。

◎　職員の資質向上

・オンライン研修を受けてきたが、学んだことを日頃の保育に反映させていくことが少ないように感じる。互いに報告しあい自園でできるものは、取り入れるようにしていきたい。
・保育を行う中で、やりにくい点や困ったことなどをこまめに話し合うことで、工夫や改善に繋げることができた。共通認識の大切さを改めて感じた１年だった。
・子どもへの言葉かけや関わり方について、チェックリストにより振り返ることができ、日々の保育の中でも言葉や意識の変換等、考えながら接するようにした。
・保育に関する情報を日頃から収集することを心掛けていきたい。

◎　保護者に対する支援

・コロナ禍の状況で玄関での受け入れが続いているので、子どもの様子を詳しく知らせることができるように、様子や気づいたこと、発した言葉などをメモするようにした。
・心配事や不安なことをこまめに聞くようにし、安心して預けてもらえるよう心掛けた。
・イヤイヤ期への大変さに共感しながら、保護者も子どもも気持ちの切り換えが出来るような対応の仕方を具体的に提案し、その後も様子を伝えあいながら一緒に考えられるようにしてきた。イヤという気持ちも含めて感情を出せる安心感が大切であることを伝えた。
・個別懇談では話しやすい雰囲気を作ることを意識し、普段の送迎ではあまり話さない保護者からも、家庭での様子や様々な思いを聞くことができた。今後も普段からのコミュニケーションを大切にし、子どもだけでなく保護者の“いつもと少し違う”雰囲気に気づき、声をかけるなどして家庭と連携を図りながら、子どもが安定して過ごせるようにしていきたい。